

## 計画策定の背景

### 松戸市の歴史・文化的特徴

出土品が重要文化財に指定された幸田貝塚をはじめ、140か所を超える縄文時代の遺跡があり、また戦国時代の政治拠点であった小金城や根木内城の2城が公園として保存されています。さらに、江戸時代に将軍臨席で4度行われた小金原御鹿狩、現代日本人の住居環境のさきがけとなった常盤平団地など、市民の誇りと言い得る歴史・文化に恵まれています。

### 課題〈要旨〉

- 可変的な展示室へのリニューアル
- 子育て世代や他方中高生・大学生の単独利用の促進
- ICTの活用や市内外のみならず幅広い利用者を意識した情報発信
- 千駄堀地区文化交流拠点のさらなる活性化
- 施設全体の計画的な修繕
- 新たな資料収蔵空間の模索

### 計画策定までの経緯

平成5年4月29日	開館
平成24年 6月	博物館リニューアル研究会発足
平成29年 3月	研究会にて「(仮称)こども歴史博物館」として展示計画について議論開始
平成29年10月	松戸市立博物館協議会に博物館リニューアル展示構想について諮問
平成31年 3月	松戸市立博物館協議会から「(仮称)こども歴史博物館」について答申を受ける。
令和元年 7月	企画展「こどもミュージアム」の開催と成果の検証
令和元年 8月	松戸市立博物館協議会にて、博物館リニューアル基本構想・基本計画について協議を開始

## 基本構想・計画の骨子

### 使命／ミッション

松戸市立博物館は、3つの社会的役割を果たすために活動します。

- 松戸市立博物館は、松戸の3万年の歴史と文化を研究し、その「知」の集積をもとに未来を展望するために誰もが活用できる歴史博物館をめざします。
- 多くの市民が松戸の歴史と文化を楽しみながら価値を発見し、「ふるさと松戸」に対する愛着と誇りを育むことができる地域博物館をめざします。
- 未来を担うこどもたちを育み、多くの人々をつなぎ、協力を推進し、「ひとづくり」に貢献できる文化交流の場をめざします。

### 5つの事業目標

事業目標1 広報戦略 <b>松戸ブランドの価値創出</b>	これまで蓄積してきた研究成果や貴重な文化財など松戸市立博物館の価値を強烈にアピールし、博物館の認知度アップをめざします。
事業目標2 エリア戦略 <b>広域的な文化交流拠点の形成</b>	千駄堀エリアの文化環境や自然環境を生かし、周辺施設との連携を強化し、市民のための文化交流拠点をつくりあげます。
事業目標3 ターゲット戦略 <b>新しいファン層の獲得</b>	家族で楽しめて集える博物館をめざし、新規利用者の開拓に努め、共に博物館を盛り上げていく仲間づくりを推し進めます。
事業目標4 展示戦略 <b>新たな展示空間の創設</b>	こどもも大人も松戸の歴史と文化を楽しく学ぶことができる「こどもミュージアム」を整備します。また、常設展示全体の充実を図ります。
事業目標5 施設戦略 <b>施設の長寿命化</b>	多様な利用者に対応できるよう施設の充実を図るとともに、今後も持続可能な博物館活動を展開できるよう施設・設備の長寿命化を図ります。

## 事業体系

使命/ミッション	事業目標	方針	具体的な取り組み	
<p>松戸市立博物館は、3つの社会的役割を果たすために活動します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 松戸市立博物館は、松戸の3万年の歴史と文化を研究し、その「知」の集積をもとに未来を展望するために誰もが活用できる歴史博物館をめざします。</li> <li>● 多くの市民が松戸の歴史と文化を楽しみながら価値を発見し、「ふるさと松戸」に対する愛着と誇りを育むことができる地域博物館をめざします。</li> <li>● 未来を担う子どもたちを育み、多くの人々をつなぎ、協力を推進し、「ひとづくり」に貢献できる文化交流の場をめざします。</li> </ul>	<p>事業目標1 広報戦略</p> <p><b>松戸ブランドの価値創出</b></p>	<p>(1) 所蔵文化財の価値の発信</p>	<p>(1)-① 進化していく展示 (1)-② 調査・研究対象の整理と作業の効率化 (1)-③ 館蔵資料の履歴作成と合理的な活用</p>  	
	<p>事業目標2 エリア戦略</p> <p><b>広域的な文化交流拠点の形成</b></p>	<p>(1) 千駄堀地区文化交流拠点としての位置付け</p> <p>(2) 観光拠点としての位置付け</p> <p>(3) 県西部の中核館としての位置付け</p>	<p>(1)-① 1日中楽しめる空間創出 (1)-② 市内外からの集客</p> <p>(2)-① 文化財へのアクセシビリティ強化 (2)-② まつどの歴史・文化の観光ルート (2)-③ 松戸市戸定歴史館との連携</p> <p>(3)-① 歴史・文化の拠点 (3)-② つなぐ博物館</p>	    
	<p>事業目標3 ターゲット戦略</p> <p><b>新しいファン層の獲得</b></p>	<p>(1) 子育て世代の利用支援</p> <p>(2) 地域とつながる、市内地域の歴史的文化の発信</p> <p>(3) 学校教育施設などとの連携強化</p>	<p>(1)-① 家族で楽しめるプログラム (1)-② 楽しみながら学ぶ松戸の歴史</p> <p>(2)-① 様々な団体への支援・協力 (2)-② 地域活動団体などとの連携</p> <p>(3)-① 各地域の歴史や文化を活かした小中学校との連携 (3)-② 児童学部との連携 (3)-③ 3市内高校・大学との連携</p>	  
	<p>事業目標4 展示戦略</p> <p><b>新たな展示空間の創設</b></p>	<p>(1) こどもミュージアムの整備（▶詳細次頁参照）</p> <p>(2) 新しい発見や学びのための可変的な展示</p> <p>(3) ニーズに対応した展示空間</p>	<p>(1)-① 5つの柱に基づいたこどもミュージアムの整備 (1)-② 4つの展示部門での構成</p> <p>(2)-① 可変性のある展示空間 (2)-② 調査・研究成果をスピーディに公開する展示空間</p> <p>(3)-① 松戸市立博物館でしか味わえない展示空間</p>	 
	<p>事業目標5 施設戦略</p> <p><b>施設の長寿命化</b></p>	<p>(1) インクルーシブデザインの導入</p> <p>(2) 施設老化対策の推進</p> <p>(3) アクセスの改善</p>	<p>(1)-① 快適に過ごせる施設の整備</p> <p>(2)-① 老朽化施設の改修 (2)-② 館蔵資料の適切な管理</p> <p>(3)-① 駐車場の効率的な利用 (3)-② スムーズなアクセス</p>	   

## 事業目標4 新たな展示空間の創設 (1) 「こどもミュージアム」の整備

見て触って楽しみながら松戸の歴史・文化の深さを知ることができる「こどもミュージアム」を整備し、日常的に利用できる学習の場を提供します。

### 「こどもミュージアム」の基本的な考え方

(1) 来館者が博物館と最初に会う場所	(2) 家族で一緒に楽しめる体験プログラムの提案	(3) こどもたちの自主性を重視する歴史体験	(4) 公園にある博物館の特性を活かした活動	(5) 人々の交流が生まれる広場
---------------------	--------------------------	------------------------	------------------------	------------------



### 学びを深めるための展示プラン

#### 「やってみよう」

こどもミュージアムの導入として、松戸の歴史や文化に気軽に触れ、興味を持つきっかけをつくる。

松戸の歴史や文化などに関わる体験プログラムを開発。実際に資料（レプリカ・普及用資料）に触れたり、使ってみることで歴史の楽しさを体感する。



#### 「たんけんしてみよう」

博物館の展示室や松戸の歴史や文化を楽しく探検する。

- ・総合展示室たんけん隊：総合展示室を楽しくわかりやすく見るためのしなげを開発・実施
- ・フィールドたんけん隊：松戸の歴史的環境（神社や石仏など）や里山や江戸川沿いの下谷地区の生活環境にアプローチするプログラム
- ・上記以外にも、こどもミュージアムの活動を通して様々な「たんけん隊」を企画し、こどもたちの探究心を育てる。



#### 「しらべてみよう」

「やってみよう」や「たんけんしてみよう」で興味を持った松戸の歴史や文化をより深く知るための資料をそろえる。

松戸の歴史を調査するための情報検索ツールとして、写真や地図などを用意し調査したデータを元に学び（研究）を深めるフィールドワークの基地となる。



学びをふかめる

#### 「みんなでつくろう」

様々な市民の協力を得てこどもたちの学びの機会を創出し、みんなで集う。

- ・こどもたちや多くの市民の交流拠点として、ワークショップなどの様々な活動を行う。
- ・博物館アワードなど、こどもたちの学習成果の展示や発表の場。友の会や市民歴史サークルなどの活動を展示。



チャレンジ  
ふりかえり

#### 常設展示

- ・総合展示
- ・主題展示

#### 野外展示

- ・竪穴住居
- ・水田

#### 企画展示

#### 千駄堀地区

#### 21世紀の森と広場